



2018

今年もよろしくお祝い申し上げます

理事長挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

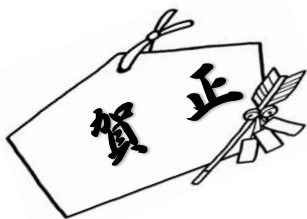
昨年は、ぱれっとに対する多大なるご寄付や物品のご提供、並びにボランティア参加での活動支援等、事業全般においてたくさんのご協力ご声援いただきました皆様には心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。新しい拠点に移り1年半が経過し、お陰様を持ちまして安定した組織運営が行なわれております。

一方、ソフト面に目を移すと、職員体制が大きく変わった年でもありました。常勤スタッフの入れ替わりや非常勤スタッフでの補強等、大きな人事がありました。毎年目標を立て年度事業を推し進めてきていますが、各セクション、職員体制の充実と人材育成が課題に挙げられています。福祉業界、どこの事業所も人員不足に頭を抱えています。スタッフの仕事へのモチベーションアップは決して労働条件整備だけでは測れませんが、少なくとも、お互いやりがいのある仕事として取り組めるよう、立場に関係なくスタッフ同士のコミュニケーションを図ること、自分の仕事への誇りと連帯感を生む職場内の雰囲気づくりを意識し勉強会も行ないました。働きやすい環境と労働条件整備を重視し、最低限の給与体系の見直しも行ないました。

少しずつですが、新生ぱれっとはスタッフにとっても利用者にとっても「働く・暮らす・余暇」において、彩りが持てる場になってきていると実感しています。おかし屋ぱれっと・工房ぱれっとは、メンバーの親密度が増してきています。仕事を離れて、移動支援を利用しながら仲間どうしでボウリングや外出を楽しんでいます。ぱれっとの家のいこっとでは、新たな入居者が増え、少しずつ活気づいてきています。しぶや・ぱれっとホームでは、ショートステイを利用する人が増え、本人の自立に向けた親の意識も高まってきています。たまり場ぱれっとでは、利用者の方が積極的に企画運営に参加し、自分たちで宿泊行事のプログラムを引っ張っていくなど、ボランティアと共に自ら楽しんで参加するスタイルが変わってきています。ぱれっとインターナショナル・ジャパンでは、総会後に報告会を開いたモンゴル視察のほか、前回に引き続きおかし屋ぱれっと・工房ぱれっとメンバーがマレーシアでのイベントに参加し、帰国後は自信を持って仕事に取り組んでいます。今年一年、ぱれっとにかかわる人たちが、健康で充実した日々が送れますよう、心より祈念いたします。

(認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭)





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局▶

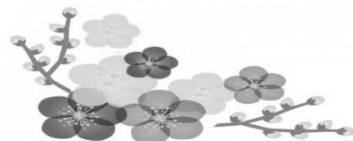
明けましておめでとうございます。ぱれっとビル竣工、移転から一年半が経過し、組織内部は落ち着きを取り戻しつつあります。事務局としては、対外的な動きや窓口業務を通して、障がい者福祉の分野はもちろんのこと、今まで以上に多方面のつながりを作ってきた昨年でした。中でも渋谷区の「ダイバーシティ(多様性を受入れ、共生社会を目指す)構想」によって、区内の企業やNPO、学校など地元のつながりが広がったことは大きな収穫でした。また、こうした動きの中で、行政と同じ目線で議論ができるパートナーシップも持てるようになってきました。今年は、こうしたつながりを、より実働的に発展させ、民間の力を結集しながら課題の解決や新たな価値の創造ができるよう、さらに積極的に事業を推進してまいります。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと▶

皆さま、明けましておめでとうございます。年末年始は、いかがお過ごしでしたでしょうか。昨年は、いろいろなたまり場行事が開催され、たくさんの方々にお越し頂きました。各イベントにおいて、常に参加者たちの笑顔が絶えず、大変賑やかな1年でありました。これもひとえに、ご協力頂いた多くのボランティアの皆さま、親御さまのおかげであると心より感謝しております。一方で、たまり場ではたくさんの人達が集まるだけに、トラブルもつきものです。そのなかで、今後は楽しむことと並行して、教育面の視点を取り入れた「学び」に繋がる機会も必要であります。一人ひとりの出会いに感謝し、地域の皆さまと広く且つ深い関係を築いていく。そして、余暇活動を通じて心から楽しみ、個々の成長にもつながる場。そんなたまり場ぱれっとを目指して、2018年も走っていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。(職員 吉岡悠真)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと▶

明けましておめでとうございます。昨年もたくさんのご注文をいただき、ありがとうございました。年末は、メンバー一同、いいチームワークで作業が進められました。イートインスペースも、子連れのママ友のご利用や、新規でお菓子を購入される方が増えました。企業の販売も新たなつながりができ、大変活気のあるおかし屋ぱれっとでした。工房ぱれっとでは、アートを通して渋谷区とつながりが出来、シブヤフロントから販売先企業とのコラボレーションで、クリスマス仕様の包装紙をデザインするなど、新たな展開が見られました。区内事業所とも連携を深めており、利用者の方の出番とさらなる活躍が期待されます。今年も良い人間関係と職場の雰囲気作りをしながら、一同仕事に取り組みで参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。(所長 相馬宏昭)



えびす・ぱれっとホーム/しぶや・ぱれっとホーム▶

明けましておめでとうございます。「えびす・ぱれっとホーム」は、今年25年を迎えます。入居者も年齢を重ね、落ち着いた暮らしを送っていますが、年齢や体調変化に伴いニーズも変化してきています。緊急一時保護事業の利用者の中には、車いす利用や階段昇降に不安な方もあり、昇降機設置等、現建物内で可能なバリアフリー化を今年は進めていく予定です。開設から1年半を迎える「しぶや・ぱれっとホーム」では、入居者それぞれが新しいことにチャレンジし、暮らしに落ち着きと広がりが生まれてきました。また、短期入所の登録も増えており、利用が85%を超える月も出てきました。多くの出会いと笑顔に触れて嬉しい反面、多様なニーズに十分応えられていない福祉現場全体の現状も見え隠れします。今年は第5期障害者福祉計画がスタートする大事な年。年の初めに「誰もが尊厳をもって暮らせる社会の実現」を祈願して。(施設長 菅原睦子)

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ) ▶

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

国外との交流・支援を目的とするPIJは、特にアジアの国々との繋がりが以前にも増して深まってきました。昨年はモンゴルの親の会の要請で、教育期間を終えた障がい者の自立のための移行支援活動を視察、関係者の熱意に打たれました。昨年に引き続き現地を訪問して、その課題解決のための方法を共に考えていきたと思います。また、マレーシアでは昨秋、ぱれっとで働く障がい者がイベントに参加して大活躍、展示したぱれっとの商品が人気を集めました。近年、ぱれっとは海外からの見学者が増え、日本の福祉からヒントを得た関係者によって、知的障がい者の社会的自立を目指してソーシャルインクルージョンが叫ばれ始めました。ぱれっとは今後の発展途上国の行政と民間の連携を応援します。(PIJ 代表 谷口奈保子)

ぱれっとの家 いこっと▶

明けましておめでとうございます。昨年のいこっとは、入居者募集と運営体制の見直しに力を入れた1年となりました。入居者の募集においては、ひつじ不動産というシェアハウスのポータルサイトへの掲載を行ない、より多くの人たちに発信しました。結果として新たな入居者が5名集まり、賑やかな共同生活を再開することができました。一時的に入居者が少なくなった8月中旬から10月末にかけては、サポットの会メンバーを中心に、当番制の宿泊入居を行ないました。入居者と生活の中でコミュニケーションをとることで、サポットの会としてどのように共同生活のサポートができるかを考える機会となりました。今後も、入居者同士がより良い人間関係を築くためのサポートを継続していきます。2018年も、多様な人を巻き込み対話を繰り返しながら、いこっとの存在意義について深く考え、価値を多くの人に届ける1年とできればと思います。

(いこっとサポットの会リーダー 黒澤友貴)